ハギ園の植栽変更について（中間報告）

久保晴盛

はじめに

ハギ園のハギは昭和50年3月に広島農業短期大学より導入した15品種75株に由来するものである（広島市植物公園年報 昭和51年度・52年度）。その後、平成14年に植栽状況の調査が行われており、14品種の生育が確認されている（広島市植物公園栽培記録第23号）。毎年、地上部の剪定と施肥が冬期に行われているが、枯損株が目立ち、補植するなど植栽を見直す必要がでてきた。

そこで、平成27年度から28年度にかけて、ハギ園をマメ科植物の見本園として再整備を行うこととした。平成27年12月から2月にかけて、造成工事（支柱の撤去・土壌改良）およびハギの移植作業を行ったので報告する。

現状の植栽と課題

平成27年現在、ハギ園には13種が生育している（表1、図1）。平成14年の調査（14種）と比べて、減少した種数はシセンハギの1種のみであるが、この12年の間に枯死した株が多くあり、すき間が目立つようになっている。また、多くの種（品種）を混植しているため、花期や草丈が揃わないという観賞上の問題もある。

さらに、ハギ園全体の観賞期は花期の9月頃に限られる（サミダレハギのみ6月頃から咲く）ことから、年間を通しての集客にも課題があった。ハギ園の周辺には、ニセアカシアやソウシジュ、ネムノキなどのマメ科の木本類、アイラトビカズラやクズなどのつる植物が植栽されている。まとめると、ハギ園周辺の全体としてマメ科植物の見本園を構成しているものの、植栽は一部の分類群に限られ、ジャケツイバラ亜科など欠落しているものも多い。

表1　H27現在ハギ園に生育している種・品種

1	キハギ
2	江戸絞（キハギ園芸品種）
3	チョウセンキハギ
4	マルバハギ
5	牡丹萩（マルバハギ園芸品種）
6	ニシキハギ
7	シラハギ（ニシキハギ園芸品種）
8	染分萩（ニシキハギ園芸品種）
9	ミヤギノハギ
10	五月雨萩（ミヤギノハギ園芸品種）
11	ツクシハギ
12	ヤマハギ
13	オオバハギ

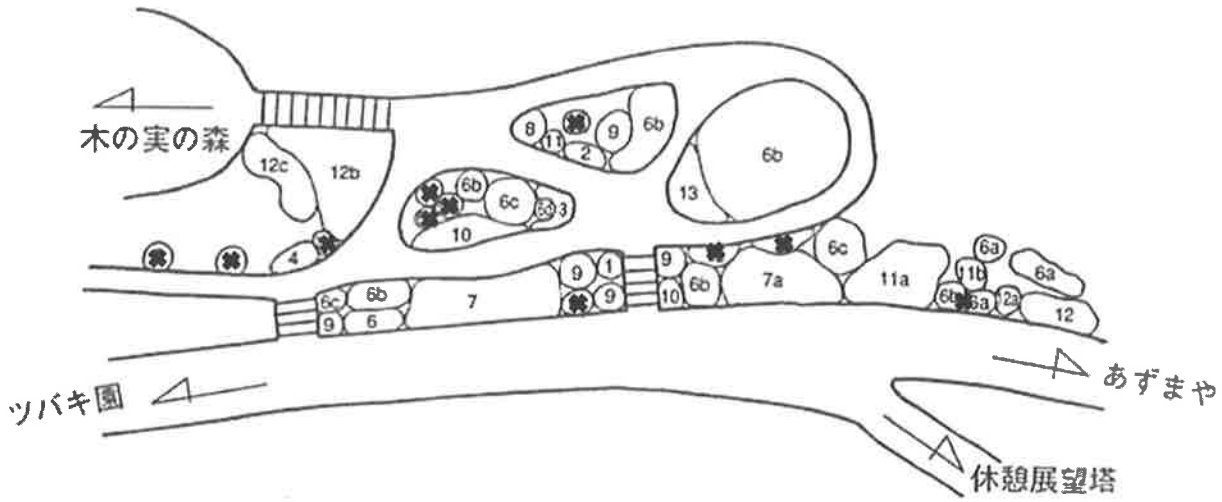

図1　平成27年現在のハギ園植栽図（×は平成14年以降の枯損株、番号は表1に対応）
＊数字の後ろにアルファベットが付いている株は雑種や他の種の可能性がある疑問株

植栽変更計画

平面部の3つの植え枡のハギを1つの植え枡に集約し、空いた空間にマメ科の多年草や小低木、秋の七草をそれぞれ植栽することを計画している（図2）。現状では、3つの植え枡にハギ7種（品種）が生育しているが、このうち斜面部に多く植栽されているニシキハギ・ミヤギノハギの2種を撤去(一部を休憩展望塔東斜面に移植)し、枯死したシセンハギを新植することで1枡6品種（2江戸絞、3チョウセンキハギ、8染分萩、10五月雨萩、13オオバハギ、14シセンハギ）の植栽とする。

写真1　PC擬木支柱の撤去

造成工事・ハギの移植作業

平成27年12月から平成28年2月にかけて、造成工事（支柱の撤去・土壌改良）およびハギの移植作業を行った。これまで、ハギ園の周囲は、PC擬木支柱に人工竹（プラスチック竹）を括り付けた柵で覆っていた。この柵は、ハギのように枝垂れる植物には適していたが、経年劣化により、人工竹の退色が目立つようになっていた。そこで、平面部の3つの植え枡を囲っていた支柱を撤去し、埋もれていた縁石を掘り出した。あわせて、バーク堆肥を基本とした土壌改良を行い、ハギ類を移植した。

写真2　休憩展望塔東斜面移植後のニシキハギ

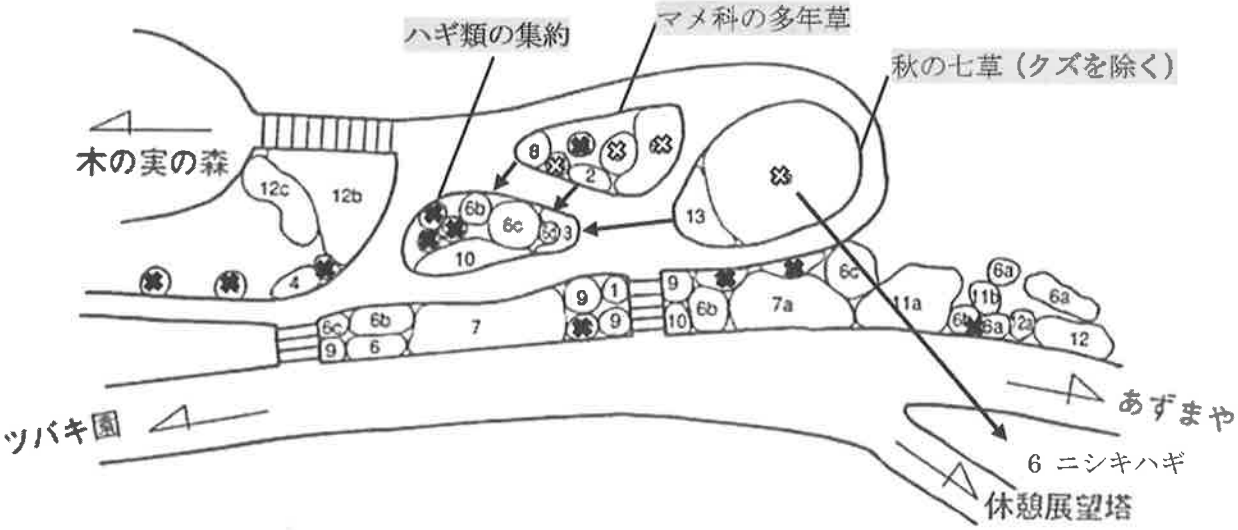

図2　再整備後のハギ園植栽図（✖は平成14年以降の枯損株、✕は撤去または移植した株）